

Torino Porta Susa

SANSHIN GROUP
Monthly Report on
the ESG May.2024

INDEX

1. TOP MESSAGE
2. グループ社員による今月のつぶやき
3. ESG Report (品質)
4. ESG Report (環境)
5. ESG Report (地域貢献とワーク・ライフ・バランス)
6. サンシングループの経営理念とCSR
7. 経営戦略体系と管理会計のかかわり
8. サンシングループの社会的責任
9. サンシングループの企業行動基準
10. サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ
11. 未来形から問題を解決するソウレンホウ

TOP MESSAGE

「生成AI」が急速に進化し、その普及が進んでいる。生成AIは莫大な量のデータを学習・処理する際に大量の電力を消費するため、さらなる電力需要の増加が懸念されている。

全国の電力需給を調整している電力広域的運営推進機関は、2024年以降、電力需要は年々増加すると想定している。その理由として、「データセンター・半導体工場の新增設に伴う需要増加」としており、生成AIの普及が大きな要因となっている。

生成AIを仕事や生活にどう活用していくかばかりが議論されがちだが、一方、生成AIによる電力需要の増加は見落としてはいけない側面である。当社グループでは、部品の小型化・温度低減による省電力化などの取組に力を入れている。企業として、また個人としても、電力の問題に自分事として向き合っていきたい。

サンシン電気株式会社 執行役員
川口 あすみ

グループ社員による今月のつぶやき

SANSHINEast

今年の夏は暑いそうです。毎年聞いているような気もしますが、今年は地球温暖化に加え、エルニーニョ現象の影響で、猛暑日が増えるのではないかと、との事。また、梅雨時の雨量は平年並みあるいは多い、との予想です。気温も湿度も高い状況では熱中症のリスクが高くなりますので、くれぐれもこまめな水分補給を心がけ下さい。(Y.Y.)

SANSHIN Hong Kong

使わなくなったものは、なるべく再利用に出すことを心がけております。中国国内には多くの中古転売アプリがあり、子供の頃の車やベビーベッド、その他の使わなくなったものなどをアプリ上でアップロードし、必要な人に安く売ることができます。再利用することで、部屋の中にスペースができ、ゆとりを持てるようになります。(Y.Q.)

CSI

セブの季節 乾期は11月～5月・雨期は6月～10月になります。今5月は乾季になりますが、雨が全く降りませんので、洗濯物は心配無く干せます。日差しもとても強くすぐ乾きます。が、そろそろセブの水不足問題が出るのかと心配は有ります。(K.S.)

SANSHINWest

GW中、30℃以上の真夏日があったかと思えば、休暇明けには20℃を下回る日もあり、体調管理が難しい日が続いています。免疫力を高めるために発酵食品や良質なたんぱく質を摂取できるようバランスの良い食事を心がけ、生活習慣を見直しましょう。(F.H.)

SHINKOWA

新緑の季節となってきました、工場に遊びに来る町ネコさん達も冬毛が抜けてスッキリして見えます。近所の方が野良ネコ保護して、町ネコにする活動をしています、動物の命を助ける事になればと、私もできるだけお手伝いをしたいと思っております。(M.N.)

SC2

【Dysonの調査】掃除機で有名なDyson社が、初の「空気質調査」を実施。衝撃の結果は⇒「屋外より室内の方が空気が汚い(特に夜間)」のだそうです。確かに合成洗剤・柔軟剤使用者が室内にひとりいるだけで、ホルムアルデヒドやTVOCの値は跳ね上がります。夜はそうした汚染物質を体に付着させて帰宅、更に洗濯の部屋干しもするでしょう。現代の公害は外の世界ではなく、あなたの家で起きているのです。(M.I.)

ESG Report (品質)

サンシングループの品質方針

サンシングループは、品質マネジメント・システムの効率的な運用により、お客様の満足にかなう企業活動を行い、社会へ貢献していくために、以下の品質方針を策定しています。

1. 企業活動において、いかなる場合も品質マネジメント・システムを遵守し、お客様に信頼される品質の提供に努めて参ります。
2. 企業活動に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスの遵守を通して品質の向上に努めて参ります。
3. 品質マネジメント・システムは、定期的な内部監査及びマネジメント・レビューを行い、実態業務に沿った具体的な是正と改善を図って参ります。

品質への取り組み

要因分析

<品質管理の基本である5M>
Material (材料)、Machine (製造機械)、Method (製造方法)、
Man (担当者)、Measurement (計測)

段取り

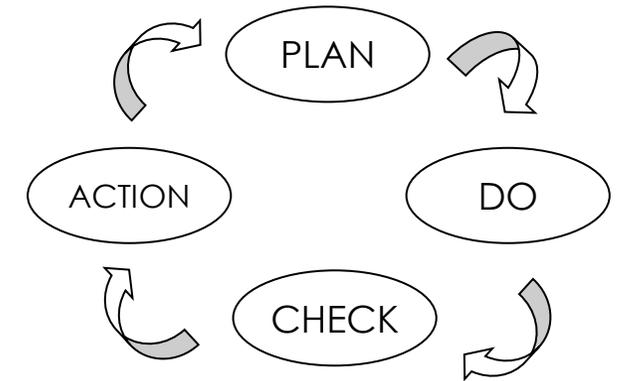
<仕事の段取り5W3H>
5W : When (いつ)、Where (どこで)、Who (だれが)、What (なにを)、Why (なぜ)
3H : How (どのように)、How much (いくら)、How many (どのくらい)

行動

<製造の基本である3現主義>
現場、現実、現物

管理

<品質管理の基本はロット管理と変更管理>



- EMS先との継続的な品質会議の実施。(1回/月)
- 定期監査の実施。(1回/1年)

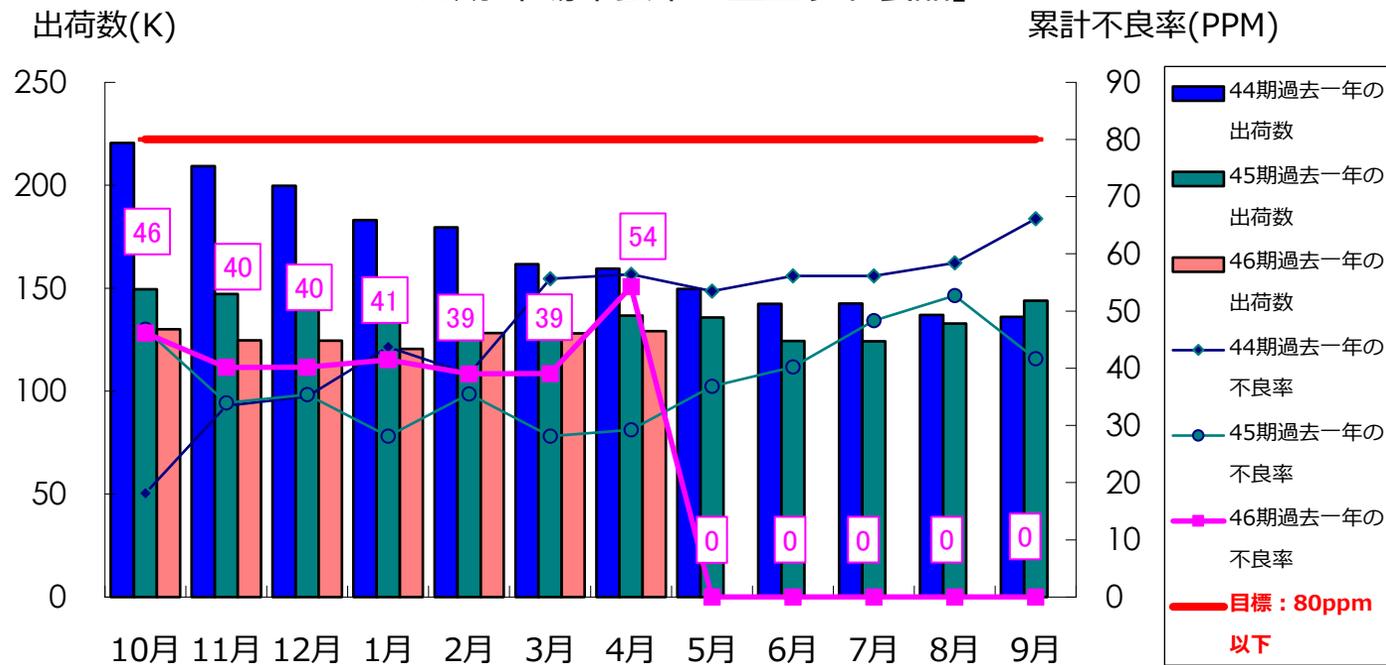
* 最も大事なのが、継続させるための「**個人の意志**」である。

品質状況

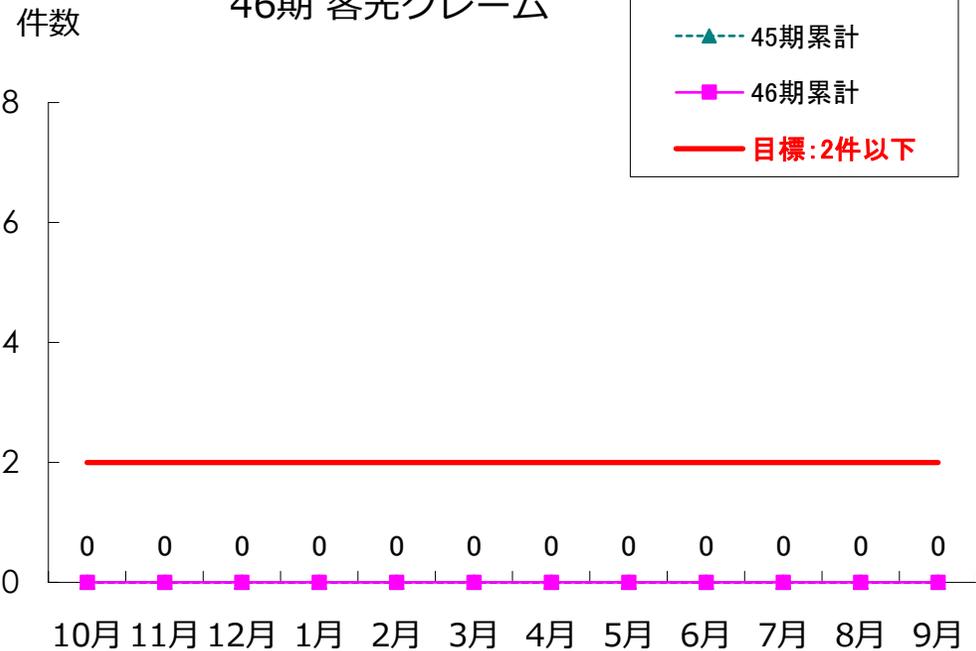
納入品不良率 (目標 : 80ppm)
 46期の累計不良率(解析依頼含む) : 54ppm

客先クレーム (目標 : 2件以下) : 0 件

46期 市場不良率「ユニット製品」



46期 客先クレーム



ESG Report (環境)

今月のTOPICS

■ G7環境相会合が「石炭火力35年までに廃止」で合意

イタリア・トリノで4月29、30の両日に開かれた先進7カ国（G7）気候・エネルギー・環境相会合（G7環境相会合）は、二酸化炭素（CO2）の排出削減対策のない石炭火力発電を2035年までに段階的に廃止することなどで合意し、共同声明を発表しました。昨年11月末から12月にかけてアラブ首長国連邦（UAE）で開かれた国連気候変動枠組み条約第28回締約国会議（COP28）で合意した「化石燃料からの脱却」「再生可能エネルギー3倍増」に沿った形です。G7の共同声明でCO2を多く排出する石炭火力の廃止年限が明記されたのは初めてとなります。

日本の電源構成は火力発電への依存度が高く現在発電量の約7割を占め、このうち石炭火力は約3割あります。現行エネルギー基本計画では30年度時点でも約2割を見込んでおり、15日には次期計画の改定に向けた議論が総合資源エネルギー調査会の分科会で始まりました。G7環境相会合での合意と共同声明の内容は、次期計画の議論など日本のエネルギー政策への影響を与えること必至です。

■ 会合の概要

- ・日時：2024年4月28日～30日
- ・開催地：イタリア共和国・トリノ
- ・参加国・地域：G7各国・地域及び招待国の気候・エネルギー・環境担当の大臣、副大臣等

今月のTOPICS

■ COP28合意内容の遂行が責務

G7環境相会合で合意し、G7として国際社会に宣言した共同声明は45項目にわたり35ページ。気候変動問題を中心に広く地球環境、エネルギー問題に対する方針や方向性を示しており、COP28での合意内容をG7の責務として遂行することを確認しています。共同声明はまず現在の厳しい国際情勢に触れ、「ウクライナの自由と未来のために不断の戦いを続けてきたウクライナ国民の勇気と回復力に敬意を表する」「（パレスチナ）ガザ地区での壊滅的で拡大している人道的危機に深く憂慮する」と記しました。

これらの戦争、戦闘状態が気候変動問題をはじめとする世界の環境、エネルギー問題に大きな影響を与えているとの共通認識からです。そして「気候変動、生物多様性の損失、汚染、砂漠化、土地・土壌・海洋の劣化、不足といった環境問題は相互にリンクし、強化し合う世界的危機で、その重大性と緊急性について改めて懸念する」と明記。気候変動、生物多様性の損失、汚染は「3重の世界の危機」としました。特に世界の喫緊の重要課題である気候変動問題については「G7として2030年までに世界の温室効果ガスを2019年比で43%、35年までに60%削減するための努力を約束する」としています。

この削減目標は気候変動に関する政府間パネル（IPCC）が「パリ協定」の目指す「今世紀末の世界の平均気温上昇を産業革命前比で1.5度に抑える」という「1.5度目標」の達成のために必要と定めたものです。各国はこの目標達成のための国ごとの削減目標を25年までに提出することが求められています。

今月のTOPICS

■ 世界の蓄電容量を6.5倍に

温室効果ガスの内訳としては化石燃料由来のCO₂が60%以上を占め、中でも多くのCO₂を排出する石炭火力の割合が大きくなっています。石炭火力は高効率なタイプでも液化天然ガス（LNG）火力と比べてCO₂排出量は約2倍とされます。新興国や発展途上国は火力発電への依存度が高く、資源エネルギー庁資料によると、日本も全発電量に占める石炭火力の割合は2022年時点で30.8%にのぼり、G7の中では33.0%のドイツに続き、20.4%の米国より多くなっています。

共同声明は世界の石炭火力発電量が増加傾向にあることに懸念を表明した上で「2030年代前半、または各国のネットゼロの道筋に沿って気温上昇を1.5度に抑えるスケジュールで既存の排出削減対策がとられていない石炭火力を段階的に廃止する」と初めて「30年代前半」との期限を盛り込んで明記されました。「ネットゼロ」とは排出量と吸収量のバランスを加味して排出量を実質ゼロにすることで、「排出削減対策がとられていない」とは、IPCC第6次評価報告書によるとCO₂を分離、回収して地中などに貯留する技術（CCS）によりCO₂を90%程度回収する対策がとられていないことを指します。自然エネルギー財団によると、米国やカナダのCCS導入火力発電所のCO₂の回収率実績は60～70%程度でコストも高く、CCS利用も厳しい壁があります。

共同声明はまた、COP28で合意された「再生可能エネルギー（再エネ）の設備容量（発電能力）を30年に3倍にする」との目標を再確認しました。その上で天候などにより左右される再エネの安定性を高めるために、バッテリーなどによる世界の蓄電容量を22年の230ギガワットから約6.5倍増やすとしました。また送電網の整備強化や関連する政策推進なども申し合わせています。

声明はこのほか、核融合エネルギーの研究強化に向けてG7に作業部会を設けるとし、世界の温室効果ガス排出量の約16%を占め、温室効果が大きいメタンの排出量削減の重要性も指摘しました。これはCO₂に限定した削減目標を掲げる中国などを念頭に、メタンなどを含む全温室効果ガスを対象とした次期削減目標を策定するよう求めた形です。

今月のTOPICS

■ 「1.5度上昇」が迫るが「現実離れ」の指摘も

世界気象機関（WMO）は3月に「23年の世界の平均気温は産業革命前から約1.45度高かった」とする報告書を公表し、パリ協定が目標にする「1.5度上昇」が間近に迫る状況に警告を発しました。

国際エネルギー機関（IEA）によると、21年の世界の石炭火力の発電量は1000万ギガワット時と電源種別で最大で、温室効果ガス削減の鍵を握るとされる石炭火力の扱いについては、G7のうち今回会合の議長国イタリアのほか、英国、フランス、ドイツ、カナダが30年までの廃止を打ち出し、米国も利用の削減方針を支持する立場です。G7環境相会合の後、齋藤健経済産業相は報道陣の取材に応じ、石炭火力廃止を巡り「各国で道筋はさまざまだ」とした上で「（G7での）合意内容に沿って取り組む」と述べています。

エネルギー基本計画は3年ごとに内容を検討し、必要なら改定することになっています。15日に始まった第7次計画の内容を議論する会合では冒頭、齋藤経済産業相は「今、日本はエネルギー政策における戦後最大の難所にある」と危機感を示しました。人工知能（AI）時代を迎えて大幅な電力需要が予想されており、脱炭素推進のための再エネの大幅普及が求められる一方、岸田文雄政権が掲げる「原発の最大限利用」は国民の批判も少なくなく、原発の再稼働は進んでいません。全廃のめどが立たない石炭火力利用には国際世論の逆風にさらされています。

国民生活や経済の根幹をなすエネルギー。その方向性を定める次期基本計画の議論は難しい舵取りが求められますが、未来に向けた日本の社会・経済構造の在り方が問われています。

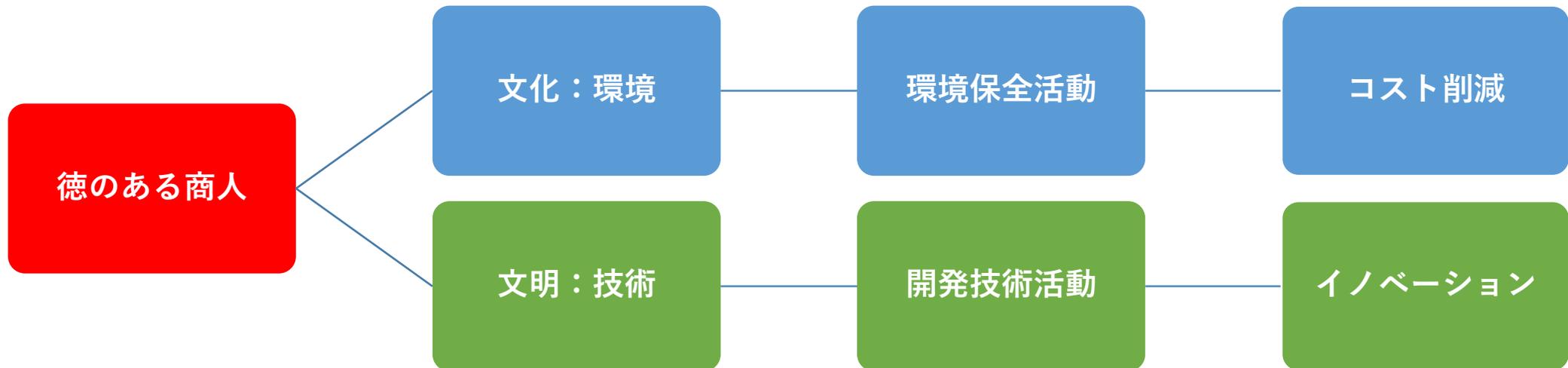
サンシングループ環境経営への歩み

1. 環境経営の基本マインド

* サンシングループ経営理念

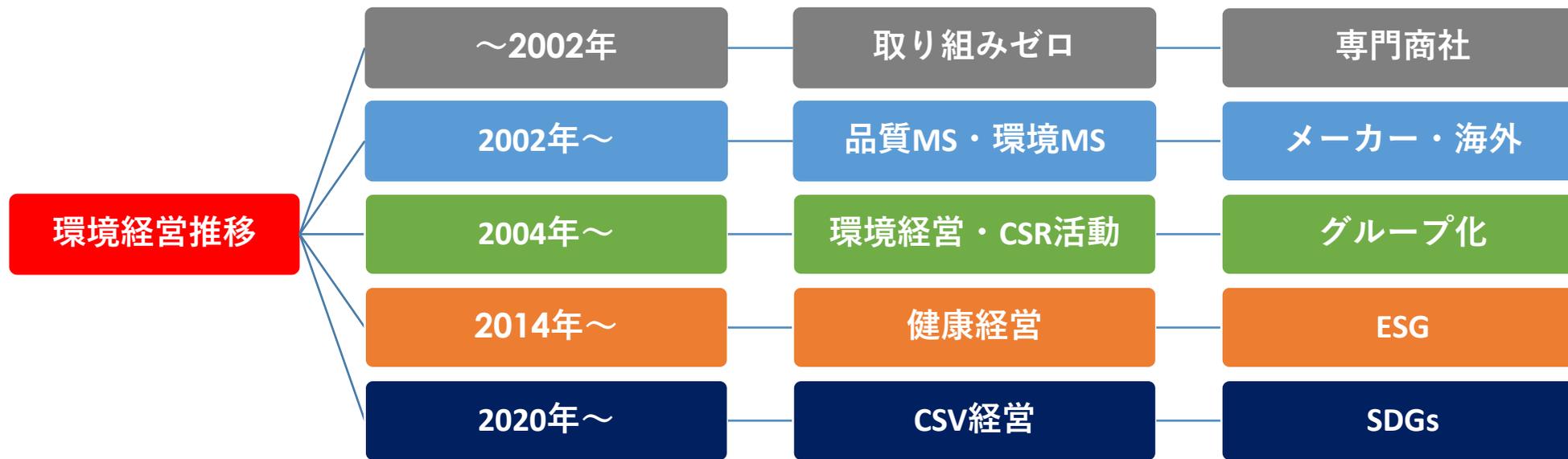
私たちは お客様を愛し お客様から愛される

徳のある商人を目指す：世界の**文化・文明**発展のために



2. 環境への取り組み

2002年から現在までの経緯



2. 環境への取り組み

～2002年

環境対応はコスト増の要因であり取り組む必要はないという認識。

2002年～

専門商社から海外商社，メーカーへと展開するなかで**環境MSを整備**。

2004年～

グループ企業体の発足に伴い**経営理念**を創設。 **CSRを能動的に展開**。

2014年～

健康経営を標ぼう，以後，東京都認定。

2020年～

CSV経営を宣言， **ESGとSDGs**を重視。

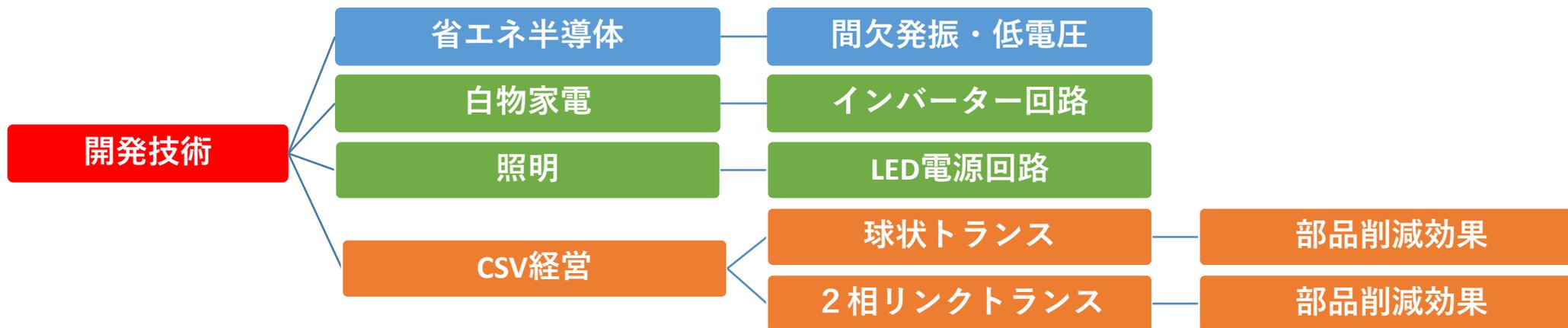
3. コスト削減実績

- **紙/ゴミ/電気**, 三種の神器, 徹底削減の継続
 - **テレワーク**による電気/交通費削減
 - 環境MS監査費用は増加（リアルコスト）
 - 環境活動時間は増加（バーチャルコスト）
 - コスト削減費用と増加費用の差額をマネジメント
- ⇒ **グループで年間約4,000万円※のコスト削減を実現！**

※2004年度対比

4. イノベーション事例

- ・ 環境保全の開発技術ビジネス



4. イノベーション事例

省エネ半導体

専門商社として拡販

白物家電

白物家電向け**インバーター回路**の設計

照明

LED照明用の回路設計および電源製造

CSV経営

環境保全を鑑みた電子部品を**自主開発**

環境とイノベーションを結び付けた技術開発

CSV経営 モノ×コト = 価値創造

5. Scopeの対応

- Scope 1：該当なし
- Scope 2：電気排出量のみ（J/C/P合計）
『ESGレポート』掲載
- Scope 3：該当事項のみ集計
 - 4：輸送配送
 - 5：廃棄物
 - 6：出張交通費（旅費除く）
 - 7：従業員交通費

6. まとめ

- ほとんどのSME他社が取り組んでいない項目だからこそ「進取の精神」で取り組みます！
- 事業活動の中で可能な小さいことからコツコツ継続します！
- 環境保全活動はコスト削減とイノベーションのきっかけになります！
- サンシングループはこれからもサステイナブル企業としてサステイナブルな社会のために環境保全活動に取り組みます！



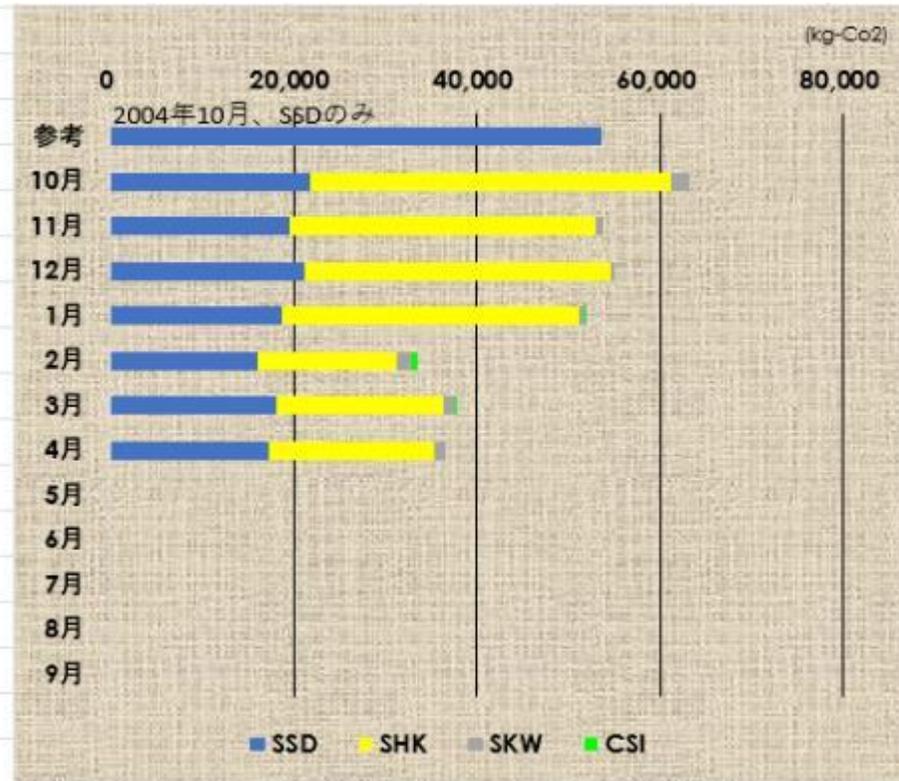
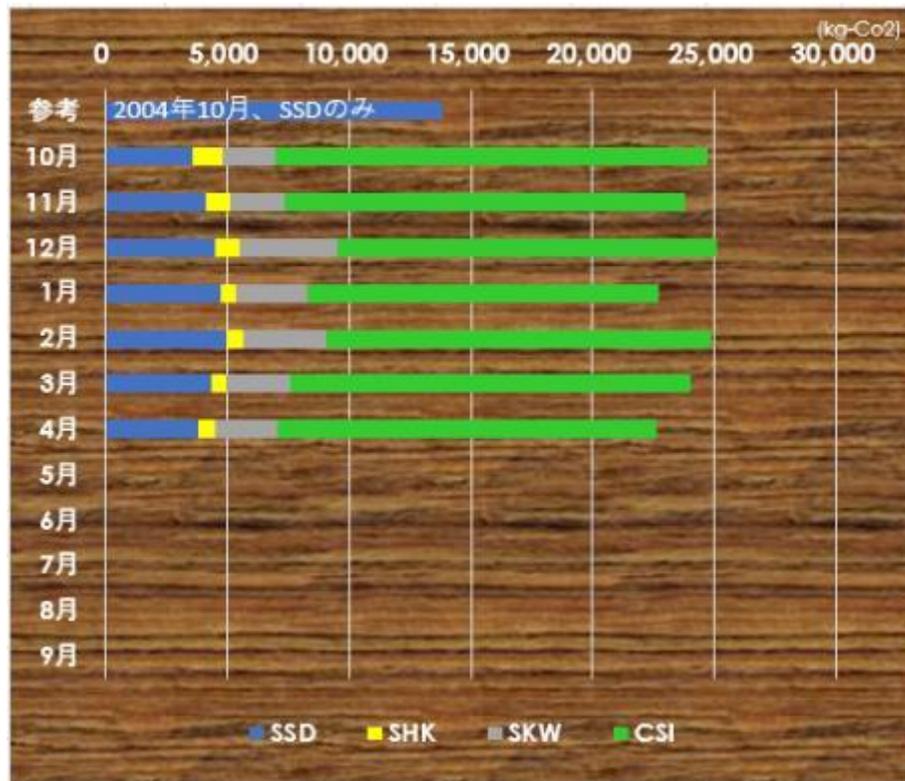
活動報告

- ① サプライチェーン排出量
- ② 廃棄物排出量
- ③ 電力使用量

SSGサプライチェーン排出量

サンシングループではサプライチェーン排出量前年比▲5%に取り組んでいます

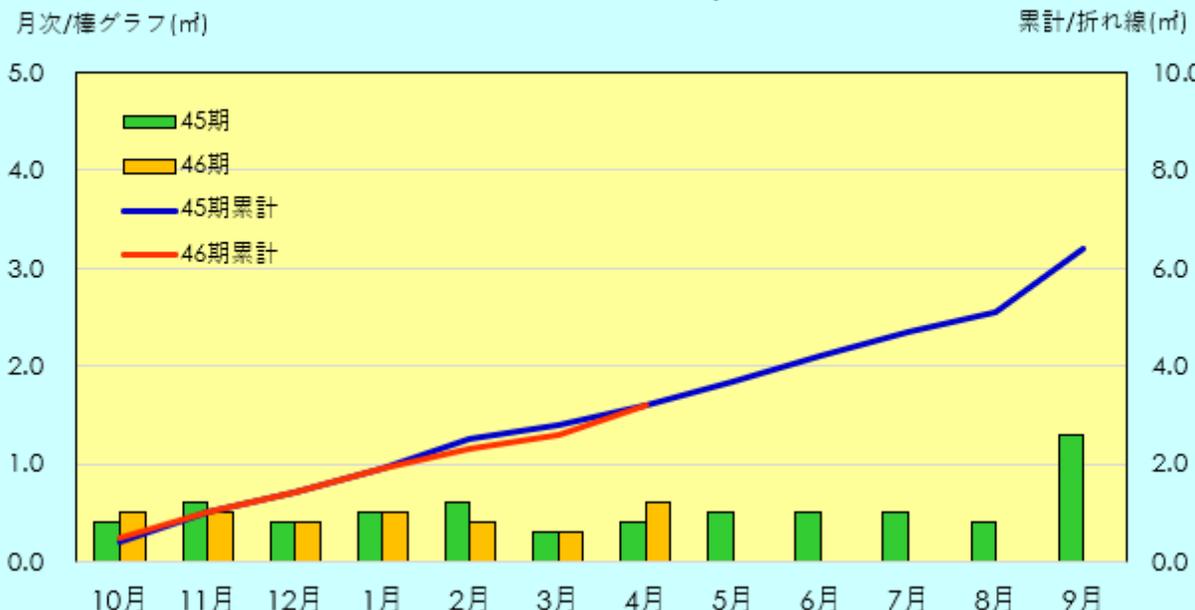
- Scope 1：該当なし
- Scope 2（他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出）
- Scope 3（事業者の活動に関連する他社の排出）



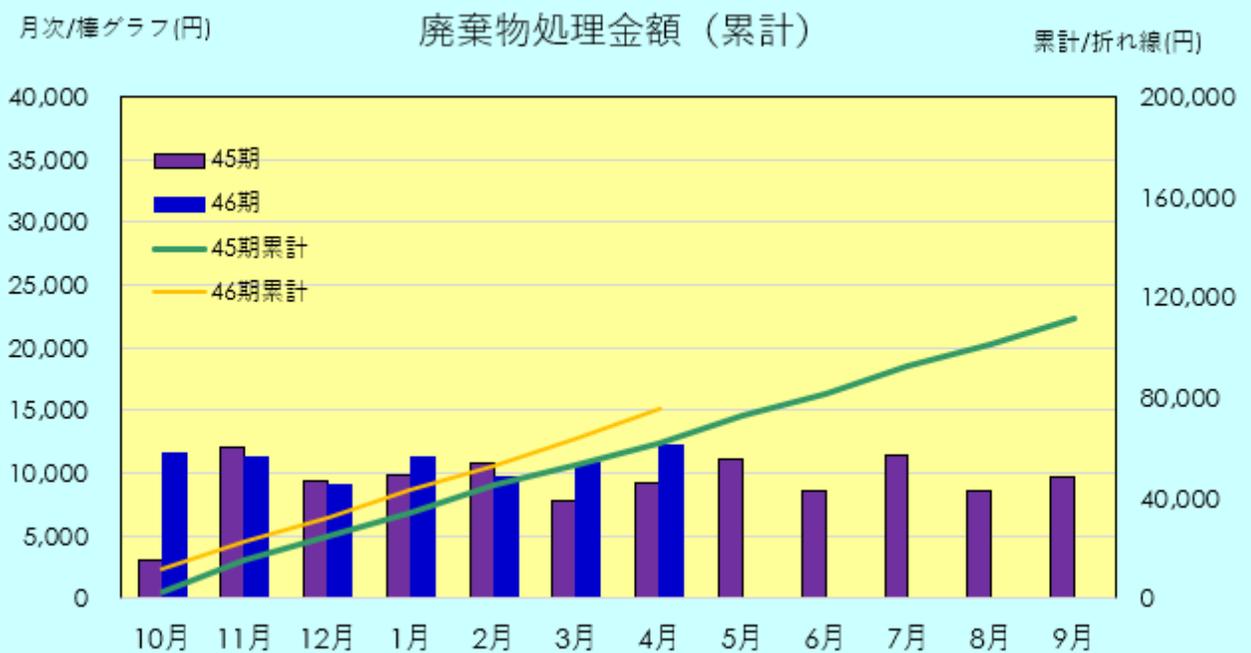
一般廃棄物 (SSD/本社)



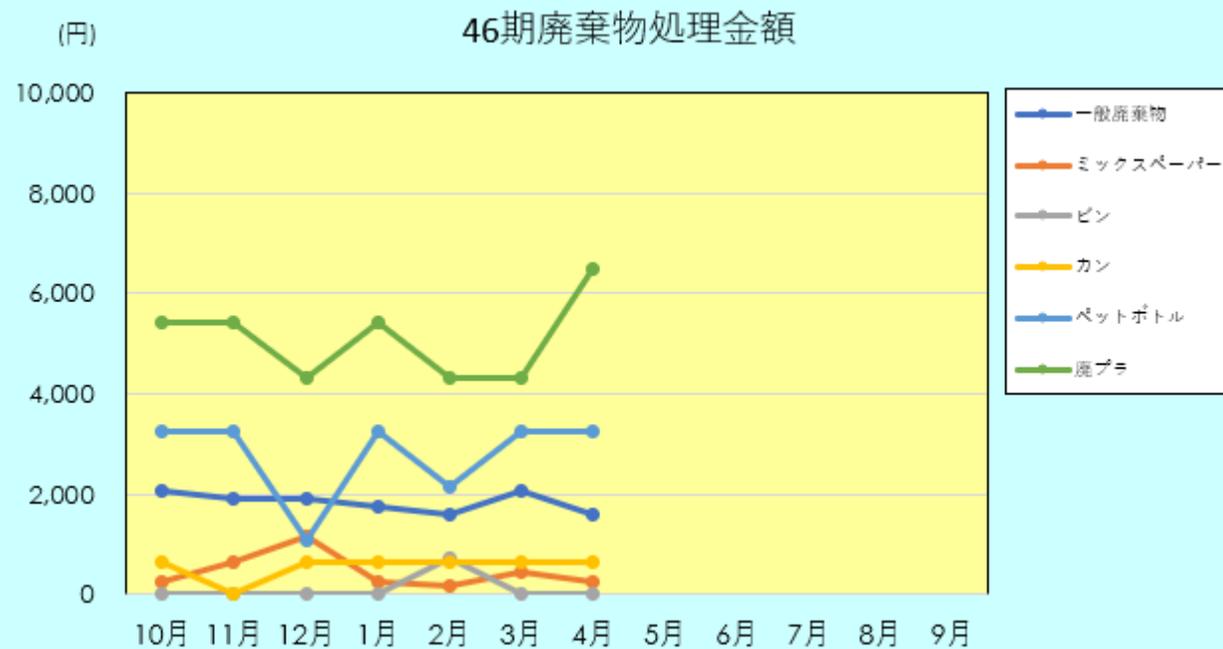
一般産業廃棄物 (SSD/本社)



廃棄物処理金額 (累計)



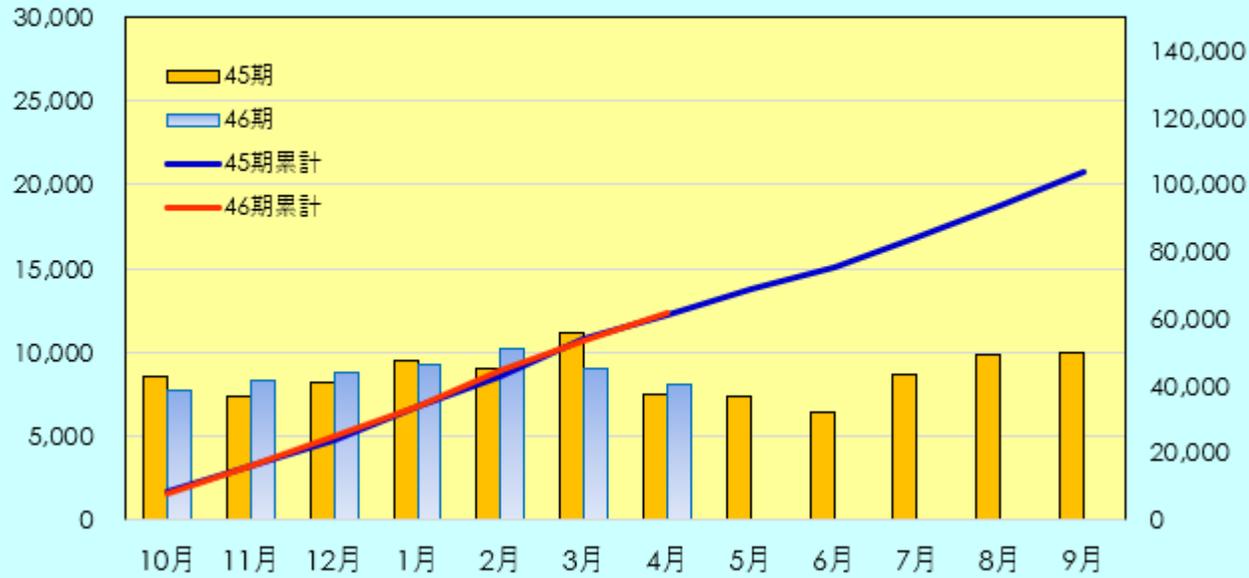
46期廃棄物処理金額



電力使用量 (SSD/本社)

月次/棒グラフ(kwh)

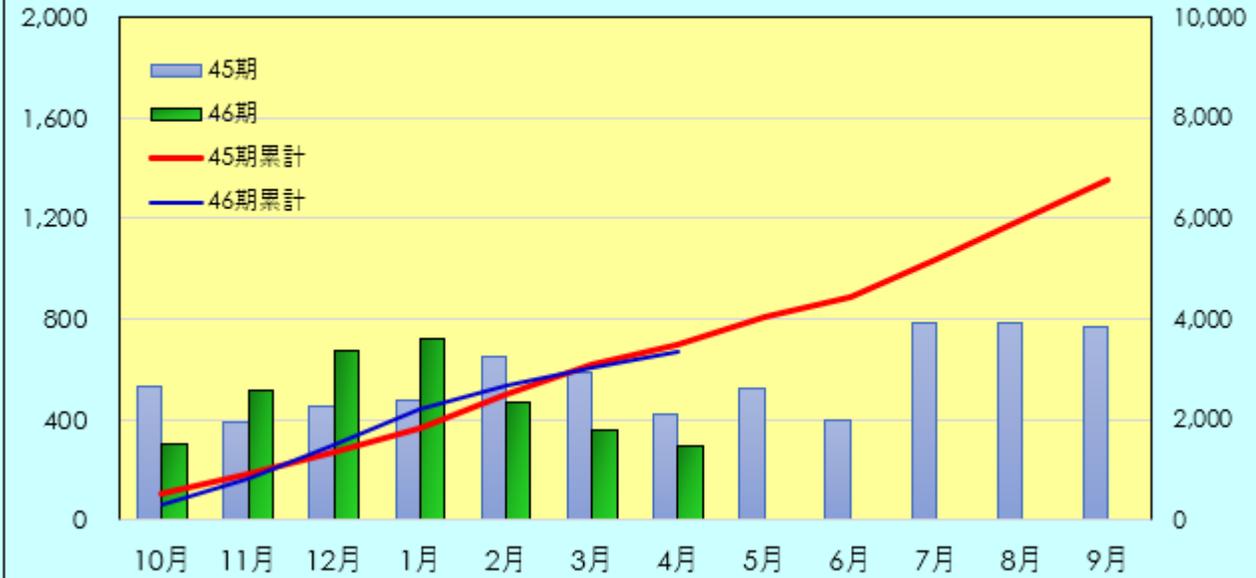
累計/棒折れ線(kwh)



電力使用量 (SSD/関西営業所)

月次/棒グラフ(kwh)

累計/棒折れ線(kwh)



電力使用量 (SKW/朝日工場)

月次/棒グラフ(kwh)

累計/棒折れ線(kwh)



電力使用量 (CSI)

月次/棒グラフ(kwh)

累計/棒折れ線(kwh)



ESG Report (地域貢献とワーク・ライフ・バランス)

今月のTOPICS

● サンシン大学2024特別講座「先端半導体産業と技術経営 AI活用システム」開講

5月15日にサンシン大学の一環として、日本工業大学大学院MOT教授 博士(工学) 岡本和也先生を講師にお迎えし、2024特別講座「先端半導体産業と技術経営 AI活用システム」を開催いたしました。お取引先様もご招待し、総勢50名以上が参加いたしました。サンシングループの海外拠点からもオンラインで参加いたしました。

講座では、先端半導体産業と技術経営、AI活用システムについて精通していらっしゃる岡本先生から最新動向をご講演頂き、90分という時間の中でも非常に濃い内容となりました。ご招待客含め半導体のプロフェッショナルが集まる中、質疑応答や意見交換も活発に行われました。

講義のあとは懇親会を開催し、親睦を深めるとともに、さらなる意見交換や議論が生まれました。

サンシングループでは、今後もサンシン大学の活動に力を入れてまいります。



活動報告

- ①地域貢献活動
- ②ワーク・ライフ・バランスへの取り組み
- ③人財育成への取り組み

地域貢献活動

- 地域雇用の促進
- 地域清掃の実施（4月参加人数：延べ4名）
- ハンディキャップのある方々の自立を目指すお弁当宅配センターから会議用お弁当を購入
- インターンシップ実習生の受け入れ（日本、中国、マレーシア）
- 近隣の小中学校へ新聞を寄贈
- 企業メセナとして日本のワインや日本酒を購入（ミタスライフ）
- 飼い主のプロを育てる「ドッグライフアカデミー」を創設（ミタスライフ）

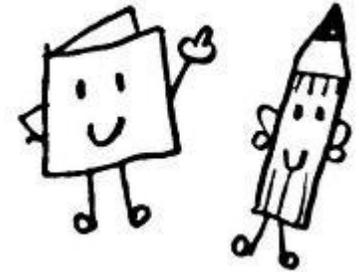


ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

- 育児休業中も休業前のほぼ半額の給与支給。行政と併せてほぼ全額受給可能（累計実績5名）
- 育児短時間勤務中も、通常と同額の給与支給（累計実績6名）
- こども手当の支給（中学生未満）
- ご家族の急な病気やご家庭の事情、社会情勢に合わせて、在宅勤務又はテレワークが可能
- リフレッシュ勤務制度（勤務間インターバル制度）の導入
- 時間単位の有給休暇取得制度の導入
- 年2回実施の人事考課にて、ご両親または20歳以下の子供を扶養している社員への加点実施
- 勤続表彰者への特別休暇の付与及び記念品を贈呈
- 毎年1回、全社員対象に健康診断を会社負担で実施
- 東京都の「感染症対応力向上PJT」に参加し、コースⅠ（感染症理解のための従業者研修）達成（2016年1月）、コースⅡ（感染症BCPの策定）達成（2017年12月）⇒2020年8月「感染症BCP」を新型コロナウイルス感染予防対策も含め更新！
- 全国健康保険協会東京支部より「健康優良企業・銀の認定証」取得（2022年5月更新）⇒6年連続！
- 経済産業省・日本健康会議より「健康経営優良法人2021（中小規模法人部門）」の認定取得（2017年～2021年）
- 東京都より「スポーツ推進企業」、スポーツ庁より「スポーツエールカンパニー」の認定4年連続取得（2017年～2020年）
- メンタルヘルスケアの一環として従業員用オンライン相談フォームを設置（海外拠点からも投稿可能、匿名でも投稿可能、秘密厳守）

人財育成への取り組み

- ▶ 社内にサンシン大学（SSU）を設置。経営・法務・税務・情報セキュリティ・新製品紹介・ビジネス英会話・健康促進法・eラーニング等の講義を開講（World-wideでSkype配信実施。就業時間内に開講。会社が費用負担）
- ▶ サンシングループ石井代表と選抜メンバーによる「CSV研究会」を開催中
- ▶ サンシン大学への出席実績は、年2回の人事考課で加点対象
- ▶ 自己啓発支援制度により、MBA/MOT取得や資格取得を積極的に支援
- ▶ 簿記、ビジネス実務法務検定、TOEIC・英検等の取得により職能給UP
- ▶ 他社での技術研修、経理実務研修等を実施
- ▶ 年に1度、好業績を残した社員に対して社員表彰を実施
- ▶ “情報共有システム（Intelligence Shared Systems）”の活用により、日々PDCAP’を全社で共有し、TOP MANAGEMENTとの直接のコミュニケーションが可能
- ▶ 一般社団法人ICTマネジメント研究会による「学生懸賞論文」の実施（毎年開催）



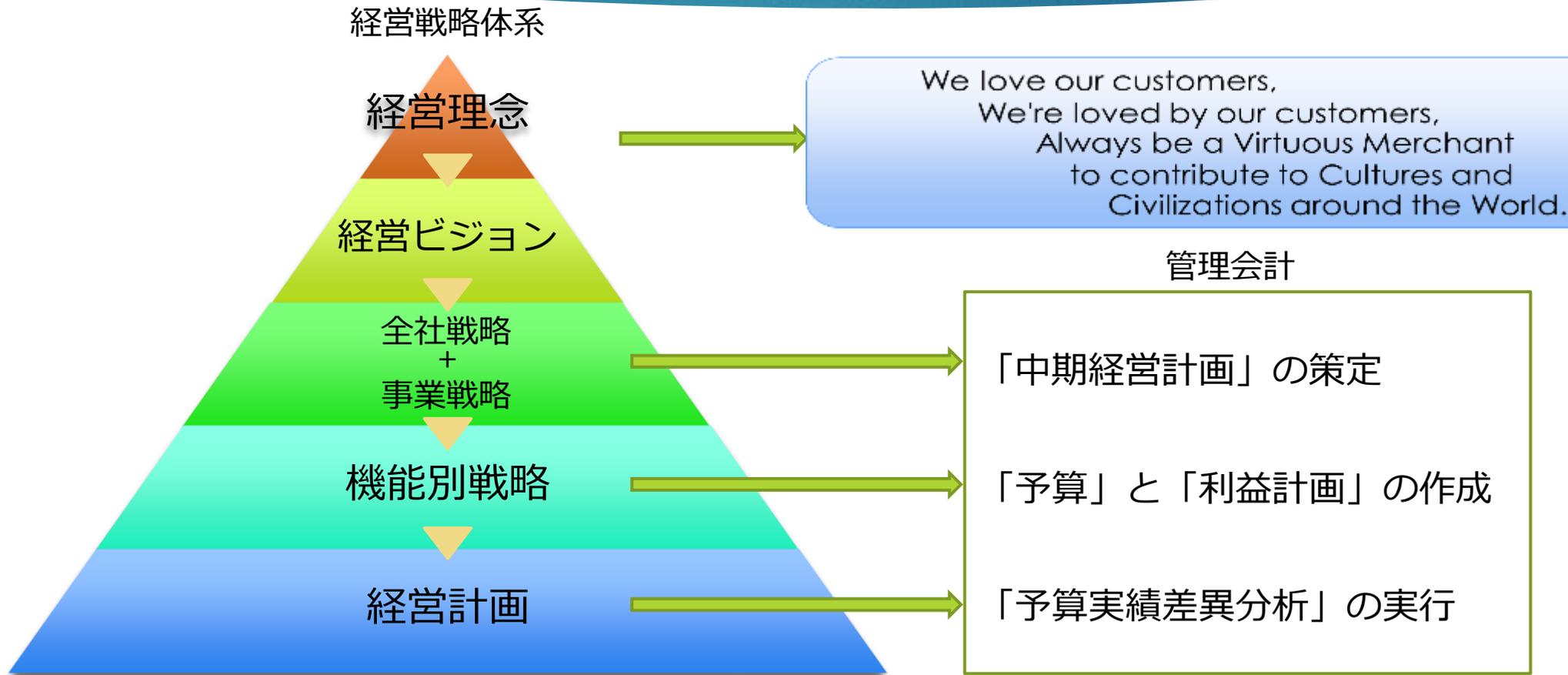
サンシングループの経営理念とCSR

We love our customers,
We're loved by our customers,
Always be a Virtuous Merchant
to contribute to Cultures and
Civilizations around the World.

サンシングループのCSRは、経営理念を全役員・全従業員が共有し、100%のコンプライアンスを大前提として、企業活動の中で経営理念を実践していくことです。

コンプライアンスの基礎となる品質マネジメント・マニュアル及び環境マネジメント・マニュアルを策定・導入し、サステナブルな企業として永続的に電機業界及び社会の発展に貢献して参ります。また、ステイクホルダーとの信頼関係の構築を通して、社会の公器として企業の社会的責任（CSR）を果たして参ります。

経営戦略体系と管理会計のかかわり



サンシングループの社会的責任

サンシングループは、企業はステイクホルダーをはじめとする社会全体と共存して繁栄し、社会的責務を伴う存在であると考え、以下の取組みを実施しています。

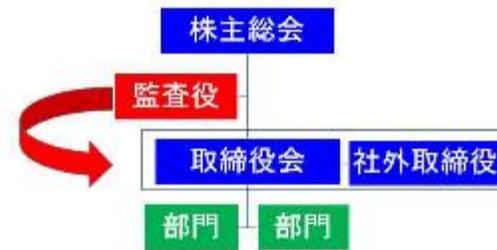
■ コーポレートガバナンス

経営者がコンプライアンスに準じた行動をしているか、コーポレートガバナンスにより、内部の業務監査を行っています。

■ CSR及び環境経営（ESG）

サンシングループではCSRに環境経営、品質保証、危機管理などの要素を含め、ホームページで活動内容を発信しています。特に環境経営はISOなどの環境マネジメントシステム（EMS）と連携した活動を実施しています。

コーポレートガバナンスと機関の役割



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、13ページ。

CSRの基本的要素



CSRの新たな要素



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、14-16ページ。

サンシングループの企業行動基準

サンシングループの倫理法令遵守企業行動基準は、「経営理念」を実践するために、企業倫理とコンプライアンスの観点から、基本的な姿勢を以下の通り定めています。

1. 私たちは、常に社会人としての自覚を持ち、高い倫理観に基づき、社会的良識に従って行動します。
2. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、関係法令および社内規定はもとより、利害関係者と取り交わした契約や約束を常に遵守し、全ての企業活動が正常な商慣習と企業倫理に適合したものになるよう努めます。
3. 私たちは、あらゆる企業活動の場面において、全ての人の基本的人権と個性を尊重し、オープンなコミュニケーションに努めます。
4. 私たちは、全ての利害関係者に対し、誠実に接するとともに、公平・公正かつ透明な関係を維持し、フェアな取引を行います。
5. 私たちは、会社の正当な利益に反する行為や会社の信用・名誉を損ねる行為を一切行いません。

サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループは、経営戦略達成のため、「アカウントティング・システム（財務的：定量的管理）」と「コントロール・システム（非財務的：定性的管理）」という2つのシステムから成るマネジメント・コントロール・システムズを導入しています。

このマネジメント・コントロール・システムズの「コントロール・システム」の基軸となるものとして、当グループ独自の品質マネジメント・マニュアルがあります。この品質マネジメント・マニュアルに基づき、ISO9000シリーズに準拠した品質方針、および環境マネジメント・マニュアルに基づき、ISO14001やエコステージなどの環境方針を策定しています。これらの方針に従い、コンプライアンス・品質・環境・地域貢献・人財育成等のCSR活動に努めています。



サンシングループのマネジメント・コントロール・システムズ

サンシングループでは、形式知化された業務をルール化し、業務フローと業務マニュアルを策定しています。

■ マネジメント・システム

マネジメント・システムにより業務を標準化し、企業活動に安定した品質をもたらしています。

■ 5W2HとPDCA→P' サイクル

PDCA→P' サイクルは計画策定のPlan、計画を実行するDo、計画と実行の差異を評価するCheck、評価から修正と改善を行い次のPlan(P')につなげるActionから構成されます。サンシングループでは情報共有システムなどを活用して、5W2Hを明示し、プロセスの進捗を可視化/共有しています。

マネジメントシステムの基本構成

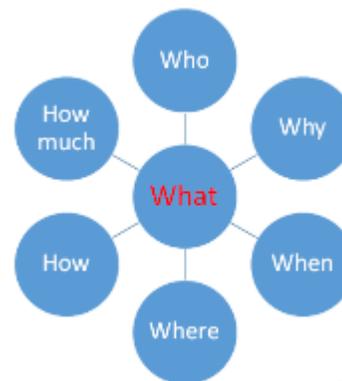


マネジメントシステムのレビュー



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、48ページ。

ビジネスの5W2H



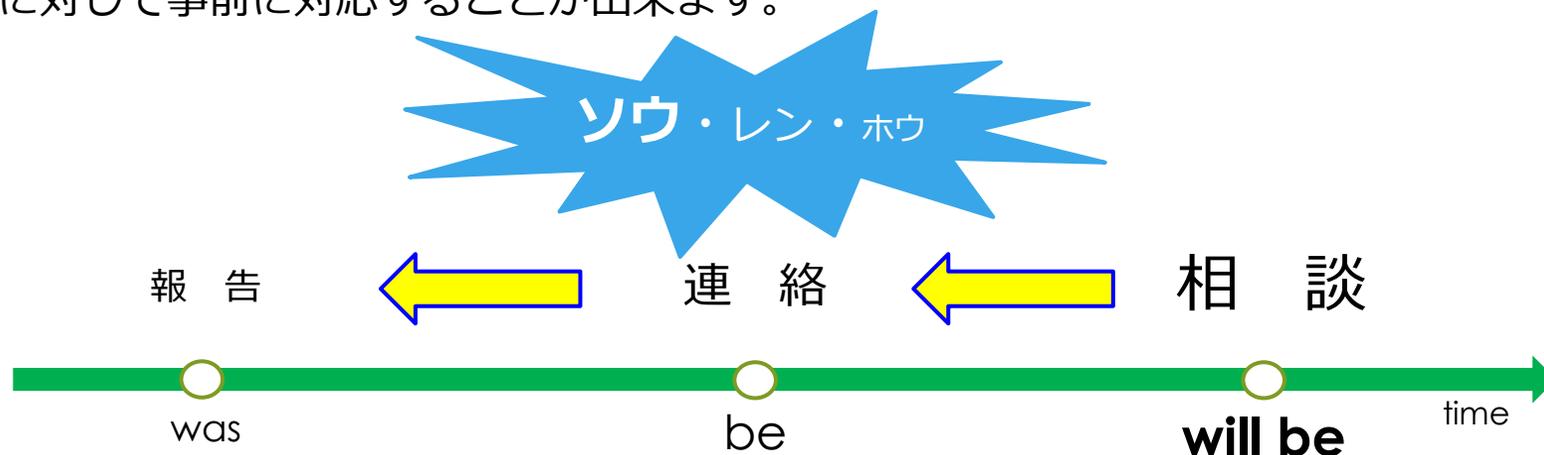
PDCA→P' サイクルの概念



出所：石井 宏宗[2019]『わかりやすい！社長が教える経営学』創成社、42ページ。

未来形から問題を解決するソウレンホウ

サンシングループでは悪い問題は過去形になる前に潰すことが重要と考え、一般的に言われるハウレンソウ（報告・連絡・相談）ではなく、ソウレンホウ（相談・連絡・報告）を励行しています。ソウレンホウにより、過去形（報告）ではなく未来形（相談）と現在形（連絡）の情報を共有し、予測される問題に対して事前に対応することが出来ます。



出所：石井 宏宗[2011]『経営とは生きること -企業家に求められる3つの視点-』税務経理協会、166ページ。



編集
後記

SSD, 営業管理課 Y.Y.

いよいよ夏が近づいてまいりました。アメリカ南東部では今年221年ぶりにセミの大発生が予想されているそうです。なんとその数1兆匹だとか...。日本ではカメムシが大量発生していますし、温暖化は昆虫たちにとっては天国なのかもしれません。かつて恐竜が栄華を誇り、その後哺乳類が台頭し、ゆくゆくは昆虫の時代が来る...？